
開講科目名：民法研究 (B) (2単位)
開設年次：1年 2年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：早川 結人
濱口 弘太郎

《授業の概要》

【授業の概要】

民法(財産法)のうち、講学上「債権法」と呼ばれる部分を中心に各制度について学ぶ。講義では、私たちが日常生活の中で接しうる身近な具体的事例を示しながら、特に重要なポイントについて説明する。債権法に関する基本的な知識を修得することにより、実際の取引関係などにおいて生じる具体的な問題について法的な観点から検討する能力を養う。

なお、この授業は教員2名で担当する。第1回から第8回を早川、第9回から第15回を濱口がそれぞれ担当する予定である。

【成績評価】

授業への参加状況・発言状況(30%)およびレポート(70%)で、評価する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス・債権法の全体像、債権法改正について
- 第2回 契約の交渉から成立における問題
- 第3回 契約の任意の実現 - 弁済
- 第4回 契約が履行されなかったときの問題 - 債務の不履行とは
- 第5回 契約が履行されなかったときの問題 - 強制履行・損害賠償
- 第6回 各種の契約類型 - 売買
- 第7回 各種の契約類型 - 賃貸借・役務提供型契約・その他の契約
- 第8回 相殺
- 第9回 責任財産の保全
- 第10回 多数当事者の債権債務関係序論
- 第11回 連帯債務・保証債務
- 第12回 当事者の変動 - 債権譲渡
- 第13回 その他の紛争処理・不法行為責任序論
- 第14回 不法行為の要件
- 第15回 不法行為の効果

【予習及び復習】

本授業は、民法のうち、「第三編債権」全体を主な対象としており、扱う内容は膨大である。授業では、事例問題の検討・解説を中心に行い、前提となる知識の詳細な確認は行わない。したがって、予習なしに授業の内容を理解するのは不可能であるので、各自後掲の参考書等を用いて事前学習を行いなさい。また、授業後は、講義レジュメ及び参考書を用いて、自身の理解度を確認しなさい。予習・復習に必要な時間の目安は、各回4時間程度である。

【質問への対応】

質問には、授業終了後またはオフィスアワーにて、対応する。

【レポート等のフィードバック】

レポートの結果については、評価に関する疑問等申出期間において対応する。

《テキスト》

松久三四彦他『オリエンテーション民法』（有斐閣、初版、2018年）

《参考書》

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社、第3版、2019年）

米倉明『プレップ民法[第5版]』（弘文堂、2018年）